

解 説



第11回品質工学技術戦略研究発表大会パネル討論

もう任せられない!! 品質工学で実践する“真の”働き方改革

*Practice 'True' Work-style Reforms by Robust Quality Engineering
— Can not Leave it Anymore!! —*

天岸 義忠**¹
Yoshitada Amagishi

上杉 一夫*²
Kazuo Uesugi

田村 希志臣*³
Kishio Tamura

中澤 和彦*¹
Kazubiko Nakazawa

三森 智之*¹
Tomoyuki Mimori

吉澤 正孝*⁴
Masataka Yoshizawa

二ノ宮 進一*⁵ (司会)
Shinichi Ninomiya

はじめに

司会 このパネル討論は、「もう任せられない!! 品質工学で実践する“真の”働き方改革」というテーマである。かなり挑戦的な内容になっている。さて、いわゆる「働き方改革」について、改めて内閣府のホームページをみると、もともとは「一億総活躍社会」という政府主導の活動の中で、働き方改革の実現が急務とされている。では、働き方改革とは何なのか。ここでは、これまでの実際の経験を踏まえて品質工学と働き方改革との関係性についてパネリストの意見を聞きながら、ディスカッションをしたいと考えている。

ここでは大きく三つの視点で議論したい。一つ目のテーマは“働き方改革とは何だろうか”ということについて。二つ目のテーマとしては品質工学と働

き方改革の関係について。実体験を踏まえた上での意見や感想を述べてほしい。三つ目のテーマは今後どうしていくか、ということについて検討したい。まず中澤氏から、なぜ今働き方改革が求められていると考えるか。

少子高齢化の問題

中澤 働き方改革ということであるが、現状の日本では少子高齢化がどんどん進み、今後労働力が減っていくのは火を見るよりも明らかである。そんな環境の中で、従来通りの働き方、たとえば時間を尺度にした労働の価値評価、あるいは時間に束縛された業務の進め方だけでは立ち行かなくなることは明白と考える。併せて個人が重視する方向が多様化してきている。以前であれば、滅私奉公に代表されるような仕事一辺倒の働き方が、周りからも「あの人はよく働いている」という評価をされるような時代があった。ところが現在では「働き過ぎ」と言われたり、「何で家庭を顧みないんだ」と言われるように逆の評価が変わってきた。この例以外にも、各個人の価値観が多様化してきている。多様化した価値観をベースとした目標の実現が、従来の働き方の枠や

*1 アルプス電気(株) (本パネル討論開催時。現在はアルプスアルパイン(株))

*2 上杉技研

*3 コニカミノルタ(株)

*4 クオリティ・ディーブ・スマーツ(有組)

*5 日本工業大学